

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

くらは門田屋敷

日付 平成 21年 1月 26日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験8年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このグループホームの利用者と職員のケア及びサービスの様子を拝見すると、私事で申し訳ないが、私の妻が1989年頃アルツハイマー病が発症してから私と二人で生活した時のことが重なって見える。当時1992年に西ドイツ(当時)のアルフレッド・フルマン氏が1974~1990年の16年間アルツハイマー病の奥さんと共に暮らした体験記に触れ、それが私の教本となり、妻との生活の貴重なケアの仕方を教えてくれた。その本には認知症になっても大切な人間として接する必要性が説得されていて、寝たきりになっても心の通いの尊さを持ってケアしなければならないと書かれ、当時私はそれに近い気持ちで妻と生活した。今、このホームで行われているケアそのものであると、私はヨーロッパの認知症ケアと日本でのケアの時代のギャップを感じている。

1997年(平成9年)に、このホームの開設に際してスウェーデンのアルツハイマー病協会の会長を招き、グループホームのケアのあり方を定め、ホームの名前をその方の名前にちなんで“くらは”と命名したとある。当時きのこエスポアール病院の佐々木院長他の方も立ち上げに協力してくれたそう。その当時、私の妻はアルツハイマー病の第3期に突入した頃で、寝たきり状態に入っていく頃だった。

現在このホームのケアで最も大切にしていることが、どんな状態になっても(寝たきりの人)昼間はリビングルームに出てきてもらって、そこにあるベッドでリビングの空気や人の動きの様子に触れながら、そのベッドで休む。人の気配がいつもあるようにしている。食事時になれば、リクライニングの車椅子に移乗して、皆と同じ食卓で食事をする。当然職員の介助が必要であるが、身体を起して食べ、普通の人と同じ目線で過ごすようにしている。まさにいつまでも人間としての尊厳を大切にしている生活を実践しているのが、このグループホームの姿である。私も当時寝たきり状態と見做されても、リクライニング車椅子で、いつまでも外で過ごしていたのを思い出す。このグループホームを訪問して、そのこの利用者の皆さんと接すると、私が妻をケアした頃と重なって見える。

このホームが開設した頃は、日本では恐らく20軒足らずだったろうと思う(1998年41軒)。それ位日本では先駆けたグループホームであり、日本では認知症の障害がどのようなものか情報もまだつかめない時代だったと思う。それから認知症ケアという行為がやっと始まった時代である。開設から11年、日本の認知症ケアの歴史を歩んできたホームであると言っても過言ではないと思う。その歴史の重みを感じるホームである。

特に改善の余地があると思われる点

介護計画と記録は、現在指導されている様式や方式としては要領よくまとめているが、認知症になって、その人の機能が欠落していくことによって生活の不自由さを補ってあげているプロセスで計画が作られ、記録を残しているが、もう少し人間の基本に立って、その不自由な部分をどのように捉えて改善あるいは維持していくのか、少し考えてみる必要があるのではないかなと思う。一緒に考えてみましょう。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営規定と重要事項説明書にグループホームに関して詳細に説明しており、改善を必要とする内容はない。</p> <p>2、全体的に見て…：個人の自由・尊厳・プライバシーを尊重しながら、一人ひとりに合わせた気の合う人とのグループ生活を、出来ることは極力自力で行い、無理のない自立を促しながら、生活・心の視点で、家族とともに支援することを理念として掲げている。</p> <p>利用料金は、介護保険1割分を含めた自己負担見込額が約21万円台であり、グループホームの中では高価格であるが、生活空間のハード面の充足点やケアの重厚さ、職員の安定(質と人容)等の要素を考えると、現在の保険からの給付金額の他にこれ位の金額が必要なのかも知れない。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：建物及び設備、外部空間について改善すべき点はない。</p> <p>2、全体的に見て…：もう10年以上経っているので、建物自体は少し古くなっているが、木材をふんだんに使った重厚な木造建築である。リビングルームは広く、食卓部分、厨房部分の他に広いスペースがあり、その周辺に昼間利用者が休憩しながら過ごすベッドやソファが配置しており、寝たきりの人も昼間は居室から出て、出来るだけ皆の居る空間で過ごすようにしている。居室はトイレと洗面所を完備した個室空間で、窓は大きく、使い慣れた家具や道具を持ち込み、個性豊かな空間を作っている。外部空間は母体の運営する福祉の学校の敷地の中にあり、周りの空間は広々としている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善事項はないが、利用者のアセスメントから介護計画の実施モニタリング、カンファレンスに至る一貫したシステムの様式や方式、プロセスの考え方の改良に取り組んでいる。グループホームの機能に即したシステムを考察する必要があり、是非考えてもらいたい。</p> <p>2、全体的に見て…：認知症に関する正しい情報と知識、介護技術について職員は身につける必要がある。母体のベネッセスタイル岡山のホームで勉強会があり、認知症研修も岡山で開催し、できるだけ多くの職員が参加できるようにするそうだ。利用者の認知症の重症化が進み、ホーム全体での行動が出来なくなっている。個別ケアに徹しなければならないが、どんな状態になっても、皆で暮らせる雰囲気や大切にホームの考え方に徹して、利用者のケアを続けてもらいたい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：管理者(計画作成担当兼務)は、このホームの生い立ちの中でホームと共に歩んできた人であるが、今年に職員の変動があり、新しい人が3名入れ代った。職員の育成が今年度の課題である。それと、利用者の重度化も進み、現在要介護4が4名、要介護5が3名占めている。ターミナルケアを含めてホーム内でケアの方法についても考慮しなければならない。</p> <p>2、全体的に見て…：このホームの利用料金が意外と前記したが、ここに入所する利用者は、ベネッセとしてのブランド感で家族は意識しているようだ。職員もベネッセの職員としての価値観を持ち、プライドを持って仕事をしているようだ。</p> <p>利用者の一人が女文楽の貢献者として表彰されることになった。現在一時帰宅しているが、来年3月までに自宅に帰られるそうだ。おめでたい話である。</p>		